附言

柳田義一

今回倉敷市福本三郎兄から友情溢るゝブラジル在の山本勝造の御名文を拝受、有難く御礼申上げます。勝造は私にとって切っても切れない従弟関係の一人、父山本嘉七は存命中大正生命保険会社四国支部長を勤めておりました。私の実母むらの実兄であっただけに、幼少の頃より親しく交りを続けておりました。

本人は高松商業卒業後直ちに鈴木入りをしたのにもかゝわらず、一ケ月目運命の日の禍に余儀なく退社することになりました。

漸時家事を手伝っておりましたところ伯父前川清二氏（大正汽船専務）の明快なる判断のもとに決心しブラジル渡航に踏切ることになりました。兄善三郎、弟正次の三人、手をつなぎ未開発のブラジルへ、青雲を抱きつゝ裸一貫のまゝブラジルの土に馴染みました。奮闘努力の甲斐あって名士の一員として今や押しも押されぬサンパウロの要職を牛じっています。

去る昭和五十六年には郷里姫路市野里慶雲寺に於いて亡父嘉七の五十回忌法要を一族相寄りしめやかに取り行いました。

苗床に種子が互いに芽吹き合う

義一

黄緩褒章受章に際し御礼の言葉

拝啓

朝夕はだいぶ日増しに寒さも感じられます今日此頃でございます

ご尊台ますますお健やかにご活躍あそばされる事と存じ上げましてお慶び申し上げます

今回私ごとき者が黄緩褒章賜わりましたことにつきご丁重なるご祝文を早速頂戴いたしまして誠にありがとうございました

この事につきましてはいつも私が申し上げております影も形も無いスエヒロが昭和八年九月十六日に開業させていただきましてより　今日の様な姿にならせて頂きましたことは　数知れぬ多勢のお客様、私の仕事に陰に陽に協力してもらっているお店の方のご協力にて私自身もずい分苦労を致しましたが　今日の栄誉をお受けすることになりましたことは皆様の心からなるご協力をいただいた結果私石原仁太郎が皆さんに代って代表としてお受け致したことと固く信じております

今後は体の続く限り努力致しまして国民の皆様に喜んで頂けるお仕事に努力させて頂きます覚悟でございます

ご丁重なるお祝いのお言葉に対し心から感謝申し上げ御礼まで申し上げます

本当にありがとうございます

昭和五十八年十一月七日

敬具

石原仁太郎

鈴木治雄様

花登　筐さんに憶う

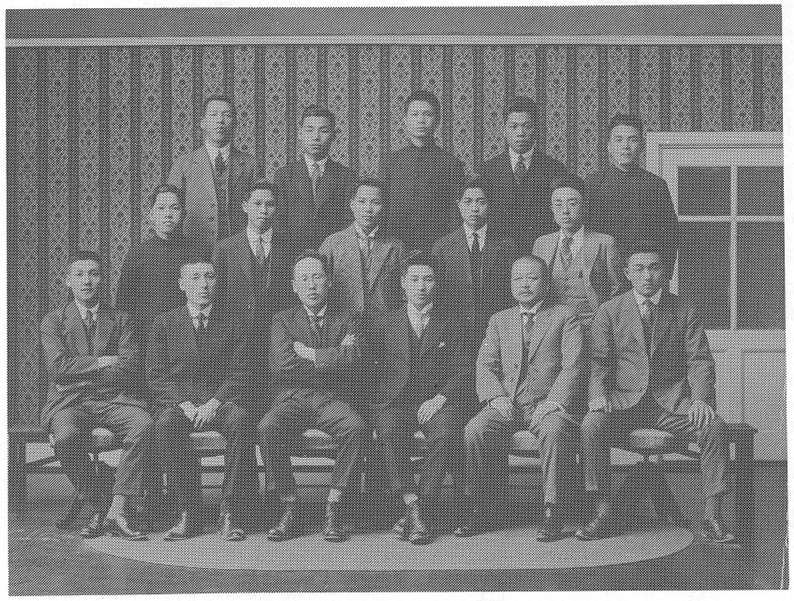
永年上方喜劇と商魂ドラマを最後迄書き続けた花登　筐師には去る昭和五十八年十月三日午前二時五十分肺がんの為東京品川区の昭和大学病院にて鬼籍の人となられた享年五十五才の早世であった。

わが辰巳会との繋りのあったのは去る昭和五十六年四月から一ケ月間大阪梅田コマに於ける鈴木商店をドラマ化したあの「海鳴り止まず」の演出からであった。御家様、金子、柳田、西川、高畑方々を中心としたものだけに格別の好評を博した。

月丘夢路、藤岡琢也らの名演技は今尚われらの眼にひそんでいる。開幕の前日の舞台けいこを見学したが、花登師は登場の俳優達を向うに廻しては激しい監督振りであった。驚いたのは最後の焼打の場面となると群衆役を何十回も舞台を走らせ、俳優達をヘトヘトにさせた印象がのこっている。開幕一ケ月を前に三月雨の中を祥竜寺に関係者四十名御家様の墓地を参拝され、のち本堂にては元気なお声にてわが国演劇界の偉大なる抱負を累々提唱された思出をのこされたが今は無し朝露に似たる人生観に打たれその哀しみはひとしおである。

鐘を撞く無情の風は花に流れて

五八・一〇・編



（上段）
寺岡　朝次
坂本
佐藤　勝喜

（中段）
紐野和一郎
山村　忠蔵
丸山　桂一
三崎　鶴清

（下段）
奥平　六郎
五島　安蔵
河村　保
北原　実馬
柳田　義一

大正15年頃　鈴木商店大阪支店会計部員